

別添 3-2-3 鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造用チェックシート
(中高層・ラーメン構造)

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・ラーメン構造^(注1)〉

外部調査

【災害時調査シート】 《第__回目チェック》 作成日時：平成__年__月__日 __時__分

第1次

外部から一見して危険かどうかの調査

(1) 外部から一見して危険と判断される

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
構造体の傾き	1 避難建物全体、又は一部が崩壊している。 もしくは、1層、又は2層以上の階層がつぶれている。			危険なため 建物の使用不可
	2 避難建物の基礎が、崩壊している。 又は、上部構造と基礎がずれている。			危険なため 建物の使用不可
	3 避難建物全体、又は一部が傾斜しているのがわかるわかる。			危険なため 建物の使用不可
その他	4 隣接崖地や地盤等が崩れ、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	5 隣接建築物が崩れ落ち、避難建物を破壊している。			危険なため 建物の使用不可
	6 隣接建築物から器物(窓枠や外壁、看板、屋外機器等)が落下して避難建物を破壊(崩壊)している。			危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ:×」)は、
第2次 余震による危険性の調査へ移行する。

施設名称：

記入者：(所属) _____ 氏名： _____

連絡先： _____

(注1) ラーメン構造とは、柱と梁が一体化した構造のこと。

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・ラーメン構造〉

外部調査
 内部調査

【災害時調査シート】 《第__回目チェック》 作成日時：平成__年__月__日 __時__分

第2次 余震による危険性の調査

(2) 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	① 隣接建築物や太い電柱等が避難建物の方向へ傾いて倒れそうである。			危険なため 建物の使用不可
	② 避難建物の方向へ崩れそうな崖地や山林がある。			危険なため 建物の使用不可
	③ 周辺地盤が大きく陥没、又は隆起している。 (約20cm以上の段差がある)			危険なため 建物の使用不可
構造躯体	④ 避難建物全体、又は一部が傾いている。 ※建物1階から順番に各階を 数カ所ずつ調査する。	<p>床に置いた ゴルフボールが転がる</p>  <p>目安 1/60以上の傾斜</p>		危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合(全て「いいえ: ×」)は、第2次 (3)各階の柱・梁のひび割れ及び損傷調査へ移行する。1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：
 記入者：(所属) _____ 氏名： _____
 連絡先： _____

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・ラーメン構造〉

外部調査
 内部調査

【災害時調査シート】 《第____回目チェック》 作成日時：平成____年____月____日 ____時____分

第2次 余震による危険性の調査(各階の損傷度調査用)

(3) 各階の損傷度調査 (担当階)

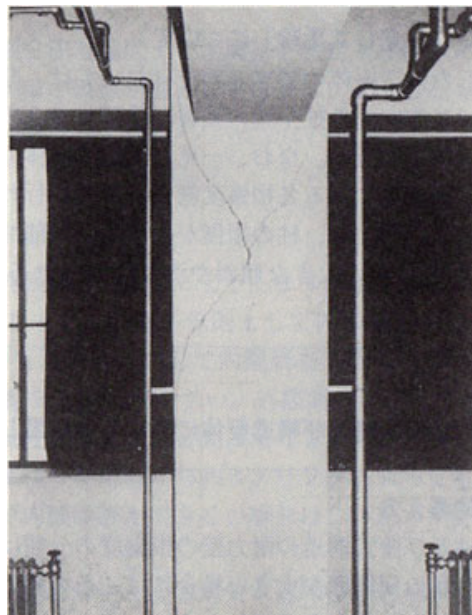
担当階の損傷箇所を数えます。
 なお、本ページは各階で使用しますので、事前に階数分用意します。
 また、調査結果は3/6ページの「(3) 各階の損傷度調査」に記入します。

※ 損傷箇所

目に見えるひび割れ、壁、天井のはがれ落ち、ずれ等
 ひびが入っている柱1本(壁1面)=1箇所として数える。
 損傷箇所が多い場合は、概数(例：約100箇所)で
 記載しても良い。

_____ 階 () 箇所

担当階の損傷度



※調査後、管理者に報告する。

施設名称：
 記入者：(所属) _____ 氏名： _____
 連絡先： _____

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)



〈中高層・ラーメン構造〉

外部調査
 内部調査

【災害時調査シート】 《第__回目チェック》 作成日時：平成__年__月__日 __時__分

第2次 余震による危険性の調査

(4) 被害最大階の柱・梁のひび割れ及び損傷調査

	調査項目	被害例	はい : ○ いいえ : ×	○の場合の対処 応急対応等
被害最大階 (階) の柱・ 梁の損傷	<p>⑥ 鉄筋が曲がり内部コンクリートも崩れ落ちている構造柱・構造梁が1本以上ある。 又は、窓や出入り口付近でサッシが曲がり床が沈下している箇所が1箇所以上ある。</p>			危険なため 建物の使用不可
	<p>⑦ 大きなひび割れ（裂け目が2mm以上又は、深いひび割れ等）が多数あり表面のコンクリートもはがれ落ちているが、鉄筋は曲がっておらず、内部コンクリートも落ちていない構造柱・構造梁が、全体の10%以上ある。</p> <p> 損傷箇所本数 ① ___本 全体柱本数 ② ___本 損傷率 ①/②×100 ___% </p> <p>損傷率が10%以上ある</p>	 <p>2mm以上の深いひび割れ 鉄筋は曲がっておらず、 内部コンクリートも落ちていない構造柱</p>		危険なため 建物の使用不可
備考欄				

※ 「危険なため使用不可」と判断された項目がない場合（全て「いいえ：×」）は、第2次（5）落下物の調査へ移行する。
 1つでも○がある場合は建物の使用不可。

施設名称：
 記入者：（所属） _____ 氏名： _____
 連絡先： _____

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造(RC・SRC造)

〈中高層・ラーメン構造〉

外部調査
 内部調査

【災害時調査シート】 《第__回目チェック》 作成日時：平成__年__月__日 __時__分

第2次

余震による危険性の調査

(5) 落下物の調査

	調査項目	被害例	はい：○ いいえ：×	○の場合の対処 応急対応等
窓	① 窓枠・窓ガラスに歪みやひび割れがあり、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
内・外装材	② 【湿式壁(注3)の場合】 モルタルやタイル等にひび割れや剥離等がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
	③ 【乾式壁(注4)の場合】 外壁や内・外装板材等に隙間や顕著なずれや板の破壊がみられ、落下の危険性がある。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
機器	④ 看板・機器(タンクやクーラー用の屋外機器など)が傾斜している。			落下しそうな場所を避けて、建物の使用可能
外階段	⑤ 屋外階段が傾斜、破損している。			屋外階段周辺を避けて、建物の使用可能
天井	⑥ 天井面に歪みや隙間、破損等が見られる。 又は、壁際と天井の隙間(余裕)や接合部が、平常時と比べて移動・破損している。 ※ホール吹抜け等、高い天井から先に調査し、各室の天井を調査する。	 		○がある部屋は、危険なため使用不可
備考欄				

※ 全て「いいえ：×」の場合は、建物の使用を開始。
「はい：○」がある場合は、その場所を避けて建物の使用可能。

施設名称：

記入者：(所属) _____ 氏名： _____

連絡先： _____

(注3) 湿式壁とは、モルタルやタイル貼り等の壁。

(注4) 乾式壁とは、釘やビス止めなどで施工できる建材を使用した壁。